

間に合うた雪やコンコン灯油売り
懐かしや背筋伸ばす今朝の冬
透けてゆく大根煮つつ一人酒

みどり

振掛の御飯お代り大根の葉
渦潮の鳴門を渡る今朝の冬
冬夕焼ビルの輝く神戸去る

丞子

音たてて庭を舞い行く落葉かな
一幅の絵となり夕べの枯芒
いらんかよ大根一本手渡され

志津子

○大根干す縁で昼寝の猫と吾子

とも

○眉宇しめて放つ一矢や冬に入る

瑞枝

早足は父親譲り柚子が成る

富子

お餅投げ秋空に舞う菓子に手を
軒下に妣の干し柿無き日暮れ

○だいこ抜く大根足の踏ん張りぬ
立冬や鉄棒の子の大車輪

立冬や人は季節に追い越され
遠き日の舅のだいこずっしりと

文子

郁子

千代

○冬晴や凹む俎板飽掛け
烏賊と煮る大根好きといひし友
紅葉の奥飛驒の峰明の月

立冬を教えてくれし指の先
水吸ひて呼吸苦しき干大根
久方の夜雨打ちゆき石路の花

○猫舌は隔世遺伝煮大根
○さねかづらここに始まる絶海池
立冬の鉄板磨く煎餅屋

初江

酔花

○小春の日白内障の犬を引く
○我が家の秘伝大根のどっさり煮
鏡川細波立てて冬に入る

唇のクリーム買いに冬来る
働きて見送る指に冬の朝
転ぶなよ言いいし背中冬に入る

富江

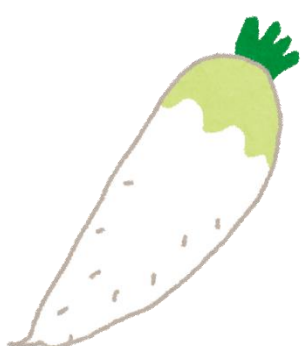
えり

○霜月や言葉愛せし師の忌過ぐ
○老犬が老婆を引いて今朝の冬
一本の大根広がる吾のレシピ

○自転車で共に風切り背の大根
牙へ刺る木星一つ冬来る
三叉の大根鎮座神の棚

美貴

○畑を打つ音の乾きて冬に入る
○川波の光りに冬の来てをりぬ
鴨の群れ何時しか鳩も其の中に



味元 昭次 作品

TVにはガザの惨劇冬に入る
鶏頭の分厚きままに冬に入る
反戦の白き意志なる大根干す

★次回市民句会

【開催日時】

令和五年十二月二十七日(水)

午後一時十五分～午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

どなたでも自由にご参加いただけます